



日本YWCAはアジア・太平洋戦争後に、侵略戦争を阻止できず、しかも戦争協力を余儀なくされたことを反省し、二度と戦争を起こさないために平和憲法を守ることを決意し、その後一貫して平和のために活動してきましたが、正式な謝罪文は出していませんでした。戦後50周年の1995年、日本YWCA創立90周年の際に立場表明を出そうとしましたが、時の常任委員会で、日本YWCAの戦時中の活動を歴史的事実に基づいて解明してこそ、責任ある表明ができると考え、この時は会長声明を出すに留まりました。その後、韓国・中国・世界YWCAなどへの聞き取りや資料調査を行い、日本の植民地支配と侵略戦争下での日本YWCAの歩みを明らかにし、創立100周年を迎えた2005年に『日本YWCA 100年史』を発行しました。『日本YWCA 100年史』の学習を通して、全国の地域YWCAより謝罪と決意表明文の案が寄せられ、今回の決意表明文案が作成され、第30回全国会員総会(2009年11月21日)において「アジア・太平洋戦争の謝罪と未来に向けての決意表明文」を決議しました。

## アジア・太平洋戦争の謝罪と未来に向けての決意表明文

日本YWCAは、アジア・太平洋戦争後、「二度と戦争はしない」と誓い、キリスト教の基盤に立って人間の尊厳を守り、世界平和の実現のために努力することを運動の基本方針としてきました。この戦争が侵略戦争であり、日本YWCAもその戦争に加担する過ちを犯した事実を認識していたからです。そして2005年の創立100周年を機に戦前・戦中の日本YWCAの歴史を改めて検証し、その罪責への反省に立って、正式な謝罪と未来への決意を表明することを決定しました。私たち日本YWCAは、過去の事実を真摯に受け止め、とくに、アジア・太平洋地域において戦争に巻き込まれた人々への加害の罪を謝罪するとともに、平和な未来の実現に向けて取り組む決意を表明いたします。

アジア・太平洋戦争とそれに至る歴史の中で、日本はアジア・太平洋地域への侵略と植民地支配によって多くの人々の自由、財産、生命を奪い、文化を破壊しました。また、多くの人々を日本へ強制連行し、非人道的で苛酷な労働を強い、あらゆる人権侵害を積み重ねました。さらに、おびただしい数の女性を日本軍の性的奴隷として扱い、女性の尊厳を踏みにじる行為を行いました。私たちはこの歴史の事実を心に刻み、日本が犯した深い罪責が現在にもおよぶことを知り、加害者としての責任を自覚するものです。

日本YWCAは、日本軍国主義体制の下で、侵略戦争に協力するという重大な過ちを犯しました。世界YWCAとの交流をやめ、国際団体としての特質を失い、天皇を神とする国家神道に妥協し、キリスト教団体の本質をゆがめていきました。植民地地下にあった朝鮮YWCA(当時)の日本YWCAへの編入、上海における日本人によるYWCA創設なども含めて、日本の不当な国家戦略の一翼を担ったことを、心から謝罪いたします。

戦後、日本YWCAは、侵略戦争のみならず、武力とすべての戦争を放棄する日本国憲法9条の精神こそ、真の平和への指針であると確信し、非暴力による平和構築のために努力を続けてきました。また、被爆国に生きるものとして、「人類と核は共存できない」ことを認識し、核のない世界の実現を目指して活動を続けています。近年、アジア地域のYWCA間の交流、特に戦争を経験していない若い世代間の交流が活発に行われ、国や文化を越えた、対話による平和を創る活動が芽生えてきています。

イエス・キリストに学ぼうとする私たちは、過ちを二度と繰り返さないために、「沈黙は過去の過ちを繰り返すことである」との認識に立って、日本の軍事大国化を許さないために声をあげ、日本政府に対して粘り強く働きかけていきます。また、非核・非暴力による平和を構築するための平和教育を展開します。そして、暴力のない未来に向けて、世界のYWCAと共に、特にアジア・太平洋地域のYWCAと連携して、対話による平和と和解への道を歩み続けていく決意を表明いたします。